

JPI包装人材育成コース

第22回包装新人研修コース

包装にこれから携わる人の入門講座

開催日：平成28年4月21日（木）・22日（金）2日間・合宿制

受講対象：新年度入社される方 入社1～2年の方

主催：公益社団法人日本包装技術協会

ご受講のご案内

企業にとって、人材を育てることは、財産を育てるということであり、企業の未来を切り拓く力を育てることになります。

また、これらの人材が戦力として、いかににより早く活躍できるかも大きなポイントになります。

当コースでは、各界の専門家を講師に招き、包装全般に渡る基礎知識の習得から、昨今、包装業界が直面している環境問題・法律問題等に至るまで、包装を判りやすく体系的に解説します。また、合宿を通して、受講生間で交流を深め、今後のネットワーク作りに役立てることが出来ます。

包装の概念を理解し、“他者より豊富な知識を持っている”という自信を最初に与えることにより、更なる自己啓発も可能となります。

どうぞ、当コースを貴社新人教育の一環としてご利用くださいますようお願い申し上げます。

開催要領

日時 平成28年4月21日（木）・22日（金）2日間合宿制
会場 セミナーハウス『クロス・ウェーブ船橋』
千葉県船橋市本町2-9-3 TEL.0474 (36) 0111

定員 30名
受講料 会員企業 1名91,800円（消費税・テキスト・宿泊費・食事代含む）
3名同時申込みの場合 割引価格 1名71,280円
*同時申込みに限らせていただきます。

一般 1名97,200円（消費税・テキスト・宿泊費・食事代含む）
*3名同時申込み割引はございません。

申込締切 平成28年4月12日（火）まで（但し、定員になり次第締め切らせていただきます）
※受講者が決まっていない場合でも、先に受講枠を確保できますので、事務局までお問合せ下さい。

お申込み方法

- ① 最終ページ申込書に必要事項を全てご記入の上、FAX (03-3543-8970) にてお申込み下さい。
協会HPからのお申込みも出来ます。協会HP:<http://www.jpi.or.jp>
- ② 申し込まれた方に後日受講証・請求書をお送りします。
- ③ 受講費は、請求書記載銀行へ開催前日までに銀行振込にてお支払い下さい。
- ④ 受講者の方が当日都合が悪くなった場合、代理の方の出席は差し支えございません。

お問合せ並びにお申込み先

公益社団法人日本包装技術協会
包装新人研修コース係 担当：竹内・佐藤
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10階
TEL.03-3543-1189 / FAX.03-3543-8970
e-mail : takeuchi@jpi.or.jp
協会HP: <http://www.jpi.or.jp>

個人情報の取り扱いについて

1. 個人情報は「第22回包装新人研修コース」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は、開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 受講申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

公益社団法人日本包装技術協会 各種研修活動のご案内

■人材育成コース

- ① 包装新人研修コース（4月開催）
入社1～2年目の新人を対象に初歩の一般的な包装基礎知識の習得を目指します。
- ② 包装基礎コース（5月開催）
入社3年目以降、または新たに包装分野に就かれる方を対象に、包装の全ての分野にわたり短期間習得を目指します。
- ③ 包装管理士講座（6月開催）
包装基礎コースの内容より一歩踏み込んだ広義の専門知識の習得を目指します。一般講義、グループ討議、ケーススタディ等合宿を通して交流親睦を図ります。
- ④ 包装アカデミー（6月開催）
専門分野の深度化と高度化を目指します。輸送包装・食品包装・包装材料・医薬品包装の4コースを開講予定。

■専門別人材育成コース

- ⑤ フレキシブルパッケージコース（8月開催）
関連法令・包材の安全衛生・接着性等、柔軟材包装の知識について短期習得を目指します。
- ⑥ 食品包装コース（11月～3月開催）
食品包装に必要な知識と最新情報について月1回の頻度で計5回講義を行います。
- ⑦ 緩衝包装設計コース（1月開催）
緩衝包装の目的、力学基礎、設計技法を実際の緩衝設計プロセスに沿いながら解説します。

⑧ 段ボール包装設計コース（2月開催）

主に初心者を対象に段ボールの特性を学び、実習時に段ボール箱を作成します。

■時事テーマ別講演会

- ⑨ 化粧品包装セミナー（7月・11月開催）
化粧品包装のデザイン、新技術、包材、化粧品業界の動向についてプログラム編成します。
- ⑩ 包装材料セミナー（1月開催）
新包材・開発事例・包装資材にまつわる問題や法律の説明、素材別マーケット動向について紹介します。
- ⑪ パッケージイノベーションセミナー（2月開催）
新しい包装の価値を創出するための情報の紹介を中心に、デザイン・販売戦略・分析情報・環境対応事例・UD・消費者へのPR等様々な分野からのテーマでプログラムを編成します。
- ⑫ 包装近未来シンポジウム（3月開催）
2020年に向けたグローバル戦略・サステナビリティ社会・包装新技術・変わる消費者の動向を探る事を目的として開催します。プログラム後半にパネルディスカッションを行います。
- ⑬ 医薬品包装セミナー（3月開催）
医薬品包装の法規、新技術、包材、医薬品業界の動向についてプログラムを編成します。

時 間	講 義
9:00 ~ 9:10	開講挨拶・オリエンテーション
9:10 ~ 10:40	講義 『包装の役割と包装を取り巻く現状』 講師 凸版印刷(株) 総合研究所 加藤 武男 氏 包装の社会性、包装の役割とその変化を認識した上で、包装産業の現状とこれからの包装実務者に求められる課題について説明し、包装の重要性と21世紀の包装産業のキーワードを考える。 1. 包装の役割 2. 包装と暮らし 3. 包装の役割の変化 4. 暮らしを変えた包装の事例 5. 包装産業の現状 6. 包装と環境問題 7. 包装と高齢化社会 8. これからの包装
10:50 ~ 12:00	講義 『生活者にやさしい包装 一高齢者の視点からー』 講師 エイジング社会研究所 代表 高岡 眞佐子 氏 容器包装を生活者、特に高齢者の視点で見てみる。 現在、4人に1人が高齢者という超高齢化社会の中で、容器包装もまた高齢者にやさしいこと(アクセシブルデザイン性)が社会的要請でもある。私たちが普段暮らしにおいて購入・使用する商品の中から、具体的に自分の目で見、手で触れてみて「高齢者にやさしい包装とは？」を探ってみよう。
12:00 ~ 13:00	昼 食
13:00 ~ 15:50	工場見学 実際に生産現場を見ることにより、商品が生産され市場に出て行く流れを認識していただきます。現場の雰囲気を感じていくことは、今後仕事をしていく上で貴重な体験となります。 見学先 サッポロビール(株)千葉工場 千葉県船橋市高瀬町2番 ■竣工：1988年6月 ■敷地面積：17万2,000㎡ ■生産能力：32万KL (緑地面積：4万2,000㎡) サッポロビール千葉工場は、首都圏への製品供給を担うサッポロビール社最大規模のビール工場です。千葉県船橋市の東京湾沿いに位置し、目の前に広がる青い海と、敷地面積の4分の1以上を占める花や緑に囲まれた工場であり、環境に対して最大限配慮して、製造工場から出る副産物・廃棄物は100%再資源化しています。千葉工場では、「サッポロ黒ラベル」「エビス」「ドラフトワン」「麦とホップ」など主力商品を中心に8ブランドの製品を製造しています。
16:00 ~ 16:30	ネットワークタイム（受講生自己紹介）
16:30 ~ 18:30	講義 『包装に求められる包装材料とは』 講師 水口技術士事務所 所長 水口 眞一 氏 1. 世界的潮流(品質、衛生、安全、環境)において果たす包装(材料)の役割 2. 包装(包装材料)の機能と技法との関係…保存性、情報伝達機能 3. 包装材料各論：紙、プラスチック、金属、ガラス 等 4. 複合材料にする理由とメカニズム 5. 包装材料に対する色々な加工方法(塗工、成型、印刷、蒸着 等) 6. 品質、衛生、安全、環境等に対応した包装材料の動き
18:30 ~ 19:30	チェックイン・夕食

時 間	講 義
7:30 ~ 8:30	朝 食
8:30 ~ 10:40	講 義 『明日から役立つプレゼンテーション』 グループ討議 『消費者（生活者）の視点から見た優れた包装とは』 講 師 TOTAL PRONET 代表取締役（包装専士） 岡 利彦 氏 1.明日から役立つプレゼンテーション（講義） ・プレゼンテーションとは ・プレゼンテーションの3つのポイント ・本日お伝えしたいことは ◆ポイントの三段跳び◆ 1.基本的な話し方（ホップ） 2.固有技術（ステップ） 3.構成力（ジャンプ） 2.消費者（生活者）の視点から見た優れた包装とは 現在、市販されている商品の中から、生活者（自分）の視点から見て優れた包装であると思う物を選び、その理由をまとめ、グループ毎に討議をし、一番良いと思われる物の一つを選び発表してもらいます。 ・各包装についてチェックポイントを参考に討議（考察）します。 ・選定した商品の包装について、オリジナルに富んだ改善すべき点を考えて下さい。
10:50 ~ 11:50	講 義 『包装を取り巻く規制・法律について』 講 師 オールテック(株) 社長／アイル知財事務所（技術士（経営工学）、弁理士） 白倉 昌 氏 生産、流通、販売、消費、廃棄まであらゆる場面で重要な役割を演ずる包装は、多くに規制、法律が関係している。パッケージの開発、設計、販売で必ず必要なこれらの法令を紹介するとともに、規格（標準化）の取組みを概説する。 ■包装を取り巻く規制・法律の対象 ・衛生、安全 ・危害の防止 ・パッケージに記載の表示 ・リサイクル ・環境対応 ・製造物責任 ・適正包装 ・デザイン・包装に関する販売
11:50 ~ 12:40	昼 食
12:40 ~ 13:50	講 義 『包装設計の基礎と考え方 ー設計技法と事例ー』 講 師 カゴメ(株) 東京本社 マーケティング本部 業務用企画部 商品企画グループ 課長（包装専士） 加藤 道昭 氏 包装設計の基本的な考え方や進め方について、特に食品の包装設計の具体的な事例を交えて分かり易く説明する。併せて、包装設計の簡単な技法についての説明も行い、包装設計の基礎と考え方を理解してもらう。
14:00 ~ 15:20	講 義 『輸送環境と包装』 講 師 オリンパス(株) 物流推進部 企画・管理グループ 包装設計チーム 課長（包装専士） 藤井 幸則 氏 包装設計を行う上で、第一に重要なことは、対象製品の品質特性を正しく理解することです。第二に重要なことは、生産地から消費地に「製品」を運ぶ際の輸送環境を把握し、正しく理解することです。輸送環境には、輸送過程における衝撃、振動、温度、湿度、気圧等の物理的障害、大気中での化学的障害などがあり、それらが製品にどのような影響、障害を与えるかを学ぶ必要があります。そして、輸送過程で遭遇する障害に耐え、「製品」の品質を確保するためには、どのような包装仕様が適正かを考え、トータルコストと環境に配慮しつつ、包装設計を行う必要があります。以上の基本的内容について、分かりやすく解説します。
15:30 ~ 16:40	講 義 『商品企画とパッケージデザイン -商品づくりのポイントとデザインの関わり-』 講 師 大日本印刷(株) 包装事業部 企画本部 リサーチ&プランニング戦略室 生活者情報ビジネス推進チーム リーダー 中越 出 氏 デザインはブランド開発であり、また生活文化提案です。商品の顔であるパッケージデザインが、いかに発想、企画、検討され、世に出ていくのかのプロセスや、関連する様々な取り組みを体系的に解説します。 1.パッケージとデザイン…その基本概念 2.パッケージデザインの潮流と傾向 3.商品コンセプトをデザイン表現へ 4.パッケージデザインの要素と役割 5.ヒューマンセンタードマーケティング 6.コミュニケーションツールとしてのデザイン

講師陣

- 凸版印刷(株) 総合研究所 加藤 武男 氏
- エイジング社会研究所 代表 高岡眞佐子 氏
- 水口技術士事務所 所長 水口 眞一 氏
- TOTAL PRONET 代表取締役 (包装専士) 岡 利彦 氏
- オールテック(株) 社長、アイル知財事務所 (技術士 (経営工学)、弁理士) 白倉 昌 氏
- カゴメ(株) 東京本社 マーケティング本部 業務用企画部 商品企画グループ 課長 (包装専士) 加藤 道昭 氏
- オリンパス(株) 物流推進部 企画・管理グループ 包装設計チーム 課長 (包装専士) 藤井 幸則 氏
- 大日本印刷(株) 包装事業部 企画本部 リサーチ&プランニング戦略室 生活者情報ビジネス推進チーム リーダー 中越 出 氏



受講生の声 —包装新人研修コースを受講して—



- ・それぞれの講義で包装の異なる面が分かり、様々な包装様式や消費者への対応、法規制があることがよく理解できました。
- ・パッケージの機能性やデザインの変遷がよく分かったので、今後店頭に並んだ新製品への興味が増してくると思う。
- ・事前に用意した商品についてグループで討議したのが色々勉強になり楽しかった。人によって感じ方や考え方が異なるので、消費者目線のモノづくりは複雑だと感じた。
- ・包装に関する多くの法規制、物流の仕組みや改善対策等、商品の知識だけでなく、生産からエンドユーザーまでの総合的な視野が必要だと思った。
- ・高齢者への配慮、環境配慮や安全性等様々な視点で包装設計を考えなければならないと思った。

第22回包装新人研修コース受講申込書

FAX.03 (3543) 8970 公益社団法人日本包装技術協会 担当：竹内

No.

受講者①	氏 名	(ふりがな)				e-mail			
	所在地	(〒)							
	会社名					所属役職			
	T E L					F A X			
	年 齢		性 別		入社年		最終学歴		
受講者②	氏 名	(ふりがな)				e-mail			
	所在地	(〒)							
	会社名					所属役職			
	T E L					F A X			
	年 齢		性 別		入社年		最終学歴		
受講者③	氏 名	(ふりがな)				e-mail			
	所在地	(〒)							
	会社名					所属役職			
	T E L					F A X			
	年 齢		性 別		入社年		最終学歴		
推薦者	氏 名					e-mail			
	所在地	(〒)							
	会社名					所属役職			
	T E L					F A X			
請求先	氏 名					e-mail			
	所在地	(〒)							
	会社名					所属役職			
	T E L					F A X			

* 未だ所属が決定していない新入社員の派遣を予定されている場合、推薦者の方の連絡先をご記入下さい。

* 受講料の請求先が受講者・推薦者と異なる場合、請求先欄にご記入下さい。